

<http://ichitech.seesaa.net/article/37067309.html>

---

8086 8086。

16bit。最初の x86 系 CPU。MS-DOS や CP/M86 等の原始的な DOS が動作するのみ。

---

186 80186。

16bit。周辺チップを統合した上、命令の拡張と高速化を行った 8086。

---

286 80286。

16bit。マルチタスク関連の命令を強化したが、それを活用したのは初期の OS/2 程度。

---

386 80386 / i386。

86 系初の 32 ビット CPU。命令体系の刷新、MMU と Virtual86 モードを搭載し、IA-32 の歴史はここから始まった。

---

486 80486 / i486。

高速化し、FPU を内蔵する等の強化を図った。

---

586 Pentium / MMX Pentium。

P5 アーキテクチャ。さらに高速化し、末期には SIMD 命令 (MMX) を内蔵した。

---

686 Pentium Pro / 2 / 3 / M。

P6 マイクロアーキテクチャ。32 ビット命令の高速化に特化し、Pentium 3 で SSE 命令を搭載。

---

786 Pentium 4。

P7/Netburst アーキテクチャ。スケーラアーキテクチャに特化して高クロック化を図った。

---